

ジャパンボウル大会

—日本語・日本文化クイズ大会—

神尾りさ（サラエボ大学）

rkamio@jaswdc.org

【要約】

全米ジャパンボウル大会は、外国語として日本語を履修するアメリカ人高校生のための日本語、日本文化大会である。1992年、ワシントンDC日米協会の主催で初開催され、毎年約200名の高校生が出場している。参加者には日本語能力のみならず、日本の文化、歴史、習慣、地理、時事、日米関係など、幅広い分野について学習することが求められる。大会では、出場者2、3名がチームとなり、日本語学習歴にそった3レベルに分かれて競い合う。

1. ジャパンボウル大会

1. 1 全米ジャパンボウル大会

「全米ジャパンボウル大会」とは、全米各地で日本語を学んでいる高校生が、日本語能力のみならず、日本の文化、習慣、歴史、地理、時事、日米関係など、幅広い分野について競い合う全米大会である。毎年全米各地から約200名の高校生が大会に出場する。アメリカで日本語を学ぶ高校生を支援する教育活動の一環として、ワシントンDC日米協会が主催しており、日本語学習を楽しみ、日本への関心を高め、大学においても日本語学習を継続してもらうことが目的とされる。

全米各地の高校で、外国語として日本語を学ぶアメリカ人の高校生2名または3名が1組のチームとなり、日本語学習歴にそった3つのレベルに分かれて、日本語能力のみならず、日本の文化、習慣、歴史、地理、時事、日米関係などの幅広い分野について、その知識を競いあう。大会では、予選100問の筆記審査と、日本語でのコミュニケーション能力をはかる会話審査の合計点で、各レベルの上位3チームが決勝戦に進む。決勝戦は早押し、個人戦、チーム戦で行われ、最上級レベルのレベル4で優勝した生徒には、日本研修旅行が贈られる。

1. 2 開催目的

外国語として日本語を学ぶ高校生に挑戦的かつ楽しめる機会を与えること、知識を試すのみならず、知識を得る場とすること、日本文化の体験や、日本人と会う機会などを提供すること、高校卒業後も日本語学習を継続し、日本との個人的関係を継続してもらうことなどが挙げられる。多くの生徒にとって、日本語を話したり聞いたりする機会は日本語の授業中に限られる。そのような生徒が年に一度、全米からワシントンDCに集まり、それぞれの知識を最大限に活用して挑戦するのが、ジャパンボウル大会である。

1. 3 出題例

ジャパンボウルの問題の特徴は、日本語のみならず、日本文化に関する問題も出題されることである。全問題のうち、約半数が日本語に関する問題、残り半数が日本文化などの問題となっている。以下の例に見られるように、各トピックにそって、より楽しく、より面白く、より活用的な問題作りを心がけている。

1
JP



Q能、歌舞伎、文楽、狂言などで使用されるこの楽器は何と呼ばれますか。

図 1. ジャパンボウル出題例 (1)

2
ABC

<p>A. さつまいも</p> <p>B. りんご</p> <p>C. おちゃ</p> <p>D. バター</p>	<p>1. あおもり</p> <p>2. しずおか</p> <p>3. ほっかいどう</p> <p>4. かごしま</p>
---	---

Q 左側の生産物と、右側の産地をマッチさせなさい。

図 2. ジャパンボウル出題例 (2)

3
RO



Qお祝い事のときなどに、贈り物に添えるこの紙は何とよばれますか。

図 3. ジャパンボウル出題例 (3)

4
JP

民主党

維新の党

Q民主党に維新の党が合流して2016年3月に結成された党名は？

図 4. ジャパンボウル出題例 (4)

5
JP



Q天井と鴨井との間に設けられる、写真のような建築様式を何とよぶか。

図 5. ジャパンボウル出題例 (5)

6
漢

活動

動物

物

Q四角にあてはまる漢字を考えなさい。

図 6. ジャパンボウル出題例 (6)

7 JP

カツレツ
ぶた

Qこの2つの言葉を見て、想像する日本の食べ物は何？

図 7. ジャパンボウル出題例 (7)

8 ABC

If the nightingale does not sing,
A. Ieyasu 1. Coax it
B. Hideyoshi 2. Kill it
C. Nobunaga 3. Wait for it

Q3人の天下人と、その性格を表した川柳をマッチさせなさい。

図 8. ジャパンボウル出題例 (8)

9 RO



Q七福神の神の名前をできるだけ多く答えなさい。

図 9. ジャパンボウル出題例 (9)

10 ABC

A. まつお ばしょう
B. よさ ぶそん
C. なつめ そうせき
D. まさおか しき

Qこの中で、俳諧人ではないのは誰ですか？

図 10. ジャパンボウル出題例 (10)

1. 4 文化に関する出題項目

ジャパンボウルで出題される項目は事前に公表され、学習者が勉強するための期間が設けられている。3年をひとつのサイクルとして出題項目が設けられ、レベル2、3、4と3年連続で出場すると、全ての項目について学習できる仕組みになっている。

	Year 1 (2017)	Year 2 (2018)	Year 3 (2019)
歴史	794-1603 年 平安 / 鎌倉 / 室町/ 安土・桃山時代: 期間/人物/出来事など	1603 年-1868 年 江戸時代: 期間/人物/出来事など	1868 年- 現在 明治、大正、昭和、平成時代: 期間/人物/出来事など
芸術と文化 (伝統的および現代的)	舞台芸術 歌舞伎、文楽、能、狂言、劇場、演劇、古典音楽、茶道を含む	視覚芸術 絵画、出版物、彫刻、陶磁器、生け花、工芸、古典映画、建築を含む	文芸、有名な作家や小説、文学の表現形式、童話、民話を含む
地理と経済	地形、地域、	自然、環境、動植物、農	日本の政治と経済：政府、

	主要な島、地域、都市、山、海、川など。	業、漁業	政治、外交、ビジネス、産業、交通機関、国章、有名企業、商品
日常生活と社会	儀式や祭式（誕生、入学、結婚、葬式など）、宗教、儀式	祭、祝祭日、年中行事、祭式	日常のマナーとエチケット、身振り、ジェスチャー
ポップカルチャー	スポーツ、武芸	若者文化、アニメ、漫画、ポピュラー音楽、伝統的料理など	飲食物、衣服、住居、日本の家で見られるもの
時事	前年度から現在の時事：政治、社会、経済、国際関係		
日米関係	上記のトピックにおける日米関係		

図 11 日本文化に関する出題項目

一 熟語、慣用句

	Year 1 (2017)	Year 2 (2018)	Year 3 (2019)
慣用句	目や手などの体の一部を使った表現	気や心などの感情に関連する表現	ことわざ、四字熟語、慣用句

図 12 熟語、慣用句に関する出題項目

2. ジャパンボウルの利点と効果

2. 1 三人寄れば文殊の知恵

ジャパンボウルはフットボールの大会ではないかと聞かれることがあるが、アメリカでテレビなどで親しまれている「クイズボウル」が名称の由来である。また、たくさんの野菜が入ったサラダボウルのように、日本語のみならず、歴史や美術、地理やスポーツなどさまざまな「日本」を学生たちに食べてもらおうという意味合いも込められている。

ジャパンボウルは3人1組で挑戦することに意義がある。歴史が得意な者、ポップカルチャーに興味がある者、動植物が好きな者など、別々の個性を持った3人の学習者が集まることで大きな力を発揮することができるからだ。特に「個」の能力が重視される米国教育を受ける学習者にとって、ジャパンボウルのモットーである「三人寄れば文殊の知恵」を身をもって体感してもらう特別な機会でもある。また、弁論大会などでは、舞台上で観客を納得させるアピール力やパフォーマンス力なども求められるが、ジャパンボウルの場合は、人前に出ることが苦手な生徒でも、チームの仲間と協力して上位にあがることのできる点が特徴的である。

2. 2 21世紀の外国語教育スタンダード

AP (Advanced Placement) プログラムは1900年、米国高校生を対象として College Board により設立された。AP プログラムは、高校生の各科目の能力を測り、成績によって大学レベルのコースを履修したと見なされるもので、2006年には AP 日本語コースが開始された。この正式名称は Advanced Placement Japanese Language and Culture となっており、言葉だけでなく、文化が重要視されていることが名称にも表れている。それまでのスタンダードにおいて、文化や習慣は二次的なものやおまけとして考えられていたが、それらが外国語指導をする上での重要な要素となり、ジャパンボウル大会が、日本語教育の現場において効果的に活用されるようになった。

ジャパンボウルの問題作りと大会の運営には、CEFR や ACTFL スタンダード、Can-do、米国での外国語教育の指針とされる 5C (Communication:他人とのコミュニケーション、Cultures:異文化の理解、Connections:他教科との連携、Comparisons:異文化の比較対照、Communities:社会への参加) などを用いている。言語と文化を同じ比重で扱い、「日本を学ぶ」という目的にそって学習者の能力を存分に発揮する機会となるよう、工夫されている。

3. 世界各地でのジャパンボウル開催支援

2016年より、ヨーロッパ各地でのジャパンボウル大会開催のための支援を開始した。日本語学習者数の伸び悩みや、日本語プログラムのマンネリ化などは各国共通の悩みでもあり、ジャパンボウル大会の開催によって、他地域の教師間でのネットワークを構築、強化させ、国を越えた日本語プログラムの向上を目指している。欧州では、イギリス、イタリア、セルビア、ポーランドなどで開催が予定されており、またメキシコでも開催が決まっている。

大会開催の手順としては、主催者、主催団体(大学、日本語教師会など)、開催地(大学など)、構成(弁論大会や祭りとの同日開催も可能)、経費、問題作成(ワシントンDC日米協会の協力)などについて協議し、大使館、領事館、国際交流基金、日系企業などとの協力体制のもとでの開催が望ましい。ワシントンDC日米協会では、過去25年間にわたる大会開催のノウハウや実績をもとに、今後国際的なネットワークの構築を試みていく。

参考文献

来嶋洋美・柴原智代・八田直美(2012)「JF 日本語教育スタンダード準拠コースブックの開発」、『国際交流基金日本語紀要』第8号。

柴原智代(2007)「各国のスタンダード作成の意義と日本の課題」、『国際交流基金日本語紀要』第3号。

College Board AP (2015) Japanese Language and Culture Course Description.

National Standards in Foreign Language Education Project (1999) Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century.